

廃棄物資源循環学会年会併設研究発表会の概要

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成21年9月18日に名古屋大学豊田講堂(名古屋市千種区不老町)において、全国環境研協議会企画部会(事務局：鳥取県衛生環境研究所)と廃棄物資源循環学会試験検査法部会とで開催された(参加者、約50名)。

情報交換会では、3つのテーマで情報提供および講演がなされた。

まず、国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター貴田晶子特別客員研究員から「廃棄物検定方法に係る検討の受託業務と部会活動」について情報提供がなされた。産業廃棄物等に含まれる金属等に係る検定方法について、環境省から廃棄物資源循環学会が業務を受託し、改訂に向けた検討を進めている。アンケート調査等について、全環研協議会にも協力を求めるものであった。

次に、国立環境研究所循環型社会廃棄物研究センター小林潤研究員から「国立環境研究所における環境技術開発について」として講演がなされた。この講演では、循環型社会廃棄物研究センターで行われている技術開発について紹介され、とくに、廃棄物のガス化-改質技術、マイクロ波照射による廃塩化ビニルからの脱塩素化技術について、触媒等に関する研究事例の発表がなされた。

最後に、岐阜県産業技術センターの形見 武男氏(元岐阜県保健環境研究所長)から「地方環境研究所における廃棄物研究と技術支援」として講演がなされた。溶融スラグの安全性や利用促進に関する研究及び小型焼却炉におけるダイオキシン類発生特性の試験・調査について研究事例の紹介がなされた。また、今後の地方環境研究所の役割と

して、事業者等に対する技術支援が重要となること、そのために産学官連携が重要であることが述べられた。

研究発表会では、5名より発表がなされた。

「バクテリアリーチングによる廃棄物からの金属の溶出」(愛媛県立衛生環境研究所 中村 洋祐氏)においては、製紙スラッジの焼却灰等からの硫黄酸化細菌を用いた金属の抽出と回収技術について述べられた。特にAl回収への適用の可能性が示唆される結果が報告された。

「微生物資材が排水処理機能に及ぼす影響評価の試み」(岡山県環境保健センター 板谷 勉氏)においては、環境浄化を目的として製造されている微生物資材について、活性汚泥処理における水処理機能への効果について検証を行った結果について報告された。排水処理施設に微生物資材を利用する場合の、留意点等が指摘された。

「埋立処分場内保有水の高pH値について」(兵庫県環境研究センター 金澤 良昭氏)では、兵庫県にある海面埋立処分場について、保有水のpHが低下せず高pHが続いている状態について、廃棄物のバッチ式溶出試験及びカラム式溶出試験により、その原因についての考察がなされた。

「埋立地ガスの流量測定方法の検討」(埼玉県環境科学国際センター 長森 正尚氏)では、埋立地ガスに関して廃止の判断を行う上で必要となる微量ガスの測定技術について、ガス抜き管径を絞ってから熱線式風速計による測定の有効性について、現場での実地調査を含めた報告がなされた。

「沖縄県における安定型最終処分場の採掘調査

とその結果について」(沖縄県衛生環境研究所 井上 豪氏)では、安定品目以外の埋め立ての可能性が疑われる安定型処分場について、ガス発生と埋め立てられた品目の関係について現場調査を行った結果が報告された。非安定品目の埋め立てとメタンガスの発生量との間には一定の相関が得られた。

プログラム

開会挨拶

企画部会長

(鳥取県衛生環境研究所 所長 三木 文貴)

第1部 廃棄物研究発表会

(座長：岐阜県保健環境研究所

主任専門研究員 岡 正人)

1. バクテリアリーチングによる廃棄物からの金属の溶出
愛媛県立衛生環境研究所 中村 洋祐
2. 微生物資材が排水処理機能に及ぼす影響評価の試み
岡山県環境保健センター 板谷 勉
3. 埋立処分場内保有水の高 pH 値について

兵庫県環境研究センター 金澤 良昭

4. 埋立地ガスの流量測定方法の検討

埼玉県環境科学国際センター 長森 正尚

5. 沖縄県における安定型最終処分場の採掘調査とその結果について

沖縄県衛生環境研究所 井上 豪

第2部 情報交換会：「環境研究所における環境技術開発と課題」

－「廃棄物検定方法に係る検討の受託業務と廃棄物・試験検査法研究部会活動」

国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター 貴田 晶子

－「国立環境研究所における環境技術開発について」

国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター 小林 潤

－「地方環境研究所における廃棄物研究と技術支援」

岐阜県産業技術センター 形見 武男

情報交換

閉会